

中期経営計画説明会における質疑応答

質疑応答

- : 質問
- : NECの回答

質問者 A

- 来年度(2011年3月期)はテレコムキャリアの投資が端境期になると見込まれますが、どのように事業運営をしていくのですか。
 - 国内市場はようやくLTE(*1)やWiMAX(*2)への投資が出てくると見ています。また、テレコムキャリアの投資はネットワーク機器とIT関連がありますが、特に新サービスを提供するためのIT投資が見込まれており、さらにそれがネットワーク機器の投資を呼び起こしていくと考えています。例えば、スペインのテレフォニカ社向けのSaaS(*3)プロジェクトのように、ITとネットワークを組み合わせた新しい領域もあり、そこに当社のチャンスがあると考えています。
- 自動車用リチウムイオン電池の電極の生産能力を2012年度末に年間1,000万kWhの水準にするために、どれくらいの設備投資をする計画か教えてください。
 - 投資は日産自動車の電気自動車の販売状況や市況を見ながら、ステップバイステップで実行していきます。投資規模は数百億円レベルと考えています。

質問者 B

- 2012年度に営業利益2,000億円を目指すうえで、設備投資や減価償却費はどのような水準になりますか。
 - 今まで設備投資は年間1,000億円の規模でしたが、今後は戦略的な投資も含めて年間1,000億円レベルを想定しています。減価償却費についてはあるレベルで抑制が可能であり、大きく増えることはないと考えています。

- 中期経営計画で軸足を置く指標は、売上、営業利益のどちらですか。
→ 利益確保に注力していきます。

質問者 C

- ネットワーク領域で期待する需要や取り組みを教えてください。
→ パソリンク(*4)はお客様のニーズに対応し進化しています。現在、トップシェアであり、新興国マーケットに注力していきます。また、フェムトセル(*5)は競合が少なく、家庭内のネットワークをつなげるなど機器周辺にいろいろな機能を付加することで規模の大きい事業になると考えています。海底ケーブルシステムは寡占市場であり、動画のトラフィックが増加していることから伸び代があると考えています。NTTのNGN投資は継続すると見えています。これらに加えて、テレフォニカ社向け提案で実現したITとネットワークの融合領域のようなユニークなソリューションを提供し差異化を図っていきます。

質問者 D

- スマートグリッドについては、重電メーカーとの提携も含めどのような事業展開を考えていますか。
→ スマートグリッドの領域は将来的にいろいろな可能性があると考えています。現在、重電メーカーとの密接な関係はありませんが、電力会社との実証実験などを始めています。電池が太陽電池との繋がりで家庭内に置かれていく日もそれ程遠くないと考えています。
- 今回の中期経営計画は事業環境の変化に応じて、計画の見直しなどを行うのですか。
→ 3年間は大きく方向性を変えることはありません。各事業ともタイムリーに、キャッシュ・フローや成長性などを総合的にチェックしていきます。
- 中期的なICT投資をどのように見えていますか。
→ 世界のICT市場は2009年で約150兆円であり、年率6%の伸長で2012年には170兆～180兆円になると見えています。そのうちの例えば10%程度をクラウドとして見積った場合15～16兆円となりますが、NECは2012年度に“C&Cクラウド戦略”関連事業で1兆円の売上を目指しています。

質問者 E

- 国内市場に特化して利益を伸ばすという考え方もありますが、リスクを取ってグローバル市場への展開にこだわる理由を教えてください。
 - 当社が保有するカスタマーベースやノウハウを活かす戦略であり、大きなリスクを取るという感覚はありません。例えば、100%子会社化する欧州のNECフィリップスのカスタマーベースの活用や、買収した北米のスフィア社のアセット活用など、全く新しい領域を作っていくわけではありませんので、グローバル市場への展開は現実性があると考えています。

質問者 F

- 2010年4月にNECエレクトロニクスが非連結化されると研究開発における注力領域が変わりますか。研究開発費の対売上高比率はどのように考えていますか。
 - NECエレクトロニクスに投資していた分をC&Cクラウドに効率的に投資することが可能になります。売上高比率は8%程度を見込んでいます。
 - 注力分野は、C&Cクラウドのプラットフォーム系であり、シングルアーキテクチャのプラットフォームを開発していきます。例えば、データ・フローのコントロールにより投資を効率化できるオープン・フローを早い時期に市場投入し、差異化を図っていきたいと考えています。

*1 LTE: Long Term Evolution、3.9G、もしくはスーパー3Gとも呼ばれる3G(第三代移動通信システム)の高速化規格

*2 WiMAX: World Interoperability for Microwave Access、「WiMAX Forum」によって推進されているIEEE 802.16規格のニックネームで、無線通信技術の規格のひとつ。

*3 SaaS: Software as a Service、ネットワークを使用してアプリケーションの共有を行うサービス形態のひとつ。

*4 パソリンク: NECの製品名で、2地点間を結ぶ超小型のマイクロ波通信システム。主に携帯電話システムの無線基地局間アクセス回線に使われる。

*5 フェムトセル: 家庭に設置する超小型の無線基地局

以上